



# 東鍼会報

2013. 11 NO. 261 TŌSHIN KAIHŌ

発行  
公益社団法人  
東京都鍼灸師会  
☎ 03-3985-7501  
FAX.03-3985-7526  
www.harikyu-tokyo.or.jp

## 事業日程表 〈Nは日鍼会の略〉

### 11月

6	水	筋力アップ教室② イキイキ教室③ 新入会員説明会	17	日	保険審査会
7	木	(レセプト締切) 保険取扱疾患講習会	20	水	筋力アップ教室④ イキイキ教室④
10	日	在宅鍼灸医療推進の会 都委託講習会(中期) 〔全日学関東支部学術集会〕	27	水	筋力アップ教室〔講義〕 おおつかサロン
13	水	筋力アップ教室③ 理事会	28	木	症例検討会
16	土	保険予備審査	30	土	療養費取扱者講習会(後期)

(11/9三多摩東支部「西東京市民まつり」 11/9台東支部「学術研修会」 11/10三多摩西支部「瑞穂町産業祭」)  
(11/17北支部「健康フェスティバル」 11/17三多摩「市民公開講座」)

### 12月

1	日	(N全国師会長会議)	14	土	保険予備審査
4	水	筋力アップ教室⑤ イキイキ教室⑤ 新入会員説明会	15	日	保険審査会
5	木	(レセプト締切) 保険取扱疾患講習会	18	水	筋力アップ教室⑦ イキイキ教室⑥
8	日	豊島ふくし健康まつり 日鍼会共催学術講習会	22	日	理事会・予算会議
11	水	筋力アップ教室⑥	25	水	おおつかサロン

### 1月

8	水	(レセプト締切) 筋力アップ教室⑧ イキイキ教室⑦ 理事会	19	日	保険審査会
11	土	新年会	22	水	筋力アップ教室⑩ イキイキ教室⑧
12	日	都委託講習会(後期)	23	木	症例検討会
15	水	筋力アップ教室⑨ 新入会員説明会	26	日	新宿ハーフマラソン 〔N理事会〕
18	土	保険予備審査	29	水	筋力アップ教室〔講義〕 おおつかサロン

支部活動の掲載について――「支部活動の日時」本部が把握している範囲で掲載しています。早めのご連絡をお願いいたします。  
事業日程表への掲載は、事務局までご連絡ください。(開始時間についてはご確認ください。)

# 新入会員のご紹介

会員事業部（平成25年9月11日現在）

## 【新入会員の紹介】

氏名	住所	電話番号	ランク	支部
石野 智子	〒206-0011 多摩市関戸3-10-11 A309	042-339-8849	A	三多摩南
江川 聡	〒179-0072 練馬区光が丘7-7-9-103	03-3976-7766	A	練馬



石野智子(三多摩南)



江川 聡(練馬)

## 【住所その他の変更】

氏名	変更内容	電話番号	支部
岩下 祐士	(施術所) 〒176-0021 練馬区貫井3-16-11 フェリーミア富士見台107 オーク指圧鍼灸治療院	—	練馬
榎屋 稔信	(施術所) 〒105-0001 港区虎ノ門3-18-17 オリエンタル虎ノ門204	—	港
天野 寛敏	(施術所) 〒120-0033 足立区千住寿町2-17 松岡ビル1F	—	足立

## 【退会者のお知らせ】

氏名	ランク	支部	氏名	ランク	支部
永島 伸郎	A	文京	大串 美佐子	A	渋谷
小林 康子	B	渋谷	金澤 美香子	A	中央
岡本 健二	A	江東	古堅 好市	A	町田
松永 勝正	A	町田			

## 【学生会員入会者】

氏名
佐藤 当志

## 支部長会議事録

平成25年9月25日(水) 19:00~20:20

場所：日本鍼灸会館2F会議室

出席者

◇支部長(代理を含む) 25名

足立：小宮 秀樹 荒川：関口 知次  
 江戸川：関口 直喜(代)  
 葛飾：小林潤一郎 墨田：森野 一巳  
 台東：野呂 信全 大田：野村紀久夫  
 品川：細木 信孝 中央：井上 リン  
 港：園田 康敬 渋谷：南上 亮  
 新宿：井坂 卓司 杉並：蔦田 直人  
 中野：伊集院 克 板橋：斉藤 隆夫  
 北：小野 済 豊島：武内 潔  
 練馬：藤井 伸康 文京：安川 三郎  
 三多摩東：増田 眞彦 三多摩西：内野 孝明  
 三多摩北：邊田 幸藏 八王子日野：上杉 勝  
 町田：榎本 誠一 武蔵野三鷹：黒河内和明

◇理事・監事 16名(重複5名)

(副会長) 高田常雄 伊集院克 岩元健朗  
 (理事) 佐藤直史 一ノ瀬宏 関口知次  
 松浦正人 邊田幸藏 樋口陽一  
 森野一巳 安部達彦 鹿野和彦  
 藤井伸康

(監事) 仲田欣司 浦山久昌

◇事務局 1名(山中利道)

◎司会 安部達彦 理事

◎会長挨拶 高田常雄 会長

【案件】

1. 定款施行規則案について

<樋口理事が規則案を読み上げて説明。

邊田理事が三多摩地区の支部構成について説明>

○榎本支部長(町田)：支部長業務は経費がかかるのみならず時間もとられるので、一方的なルールをつくって強化する前に、今までの経緯を踏まえどういう考えなのかを説明すべきではないか。

○高田会長：金銭面については理事会で早急に検討したい。説明資料を出したかったが時間がなく、規則の内容を早く決めたかったのでとりあえず先に提出した状況である。

○榎本支部長(町田)：いずれにしても納得できる説明をした上で進めるべき。

○蔦田支部長(杉並)：入会について「支部長を経由して」とあるが、本部は何もしないのか。

○高田会長：今までは支部長が支部員のことを知らなかったこともあったので、こういう形で進めたいと考えている。

○蔦田支部長(杉並)：この規則の扱いについて、この支部長会では昔の評議員会のように議決をとることを要求しているのか。

○高田会長：ここは議決の場ではないので、支部長のご意見を聞いた上で直すところは直して総会にもっていこうと考えている。

○園田支部長(港)：支部入会に関するパンフレットがいまだに挨拶文やハガキが青木前会長のままなので、刷新してほしい。

○高田会長：了解した。

○野呂支部長(台東)：第5条の変更届だが、施行の日時にかかわらず本年4月にさかのぼって適用されるのか。

○高田会長：そのように考えている。

○増田支部長(三多摩東)：第3条の「特別A会費会員」と「特別B会費会員」の規定に「75歳以上」とあるが、在籍期間のみで年齢の規定はいらないのではないか。

○高田会長：以前の規定で「77歳以上」となっていたものを下げただけで特に意味はない。皆様のご意見が年齢条件はいらないというのであれば検討する。

○増田支部長(三多摩東)：会の規程としては会員歴を重要視したほうがスッキリと思うので、そのあたりは理事会で検討いただきたい。

○小林支部長(葛飾)：第13条の支部の事業だが、定款に公益目的事業を掲げているので、それとの関連で支部事業の規定にも入れたほうがよいのではないか。

○高田会長：いろいろご意見をいただいたので、それを踏まえて理事会でさらに検討する。

2. 組織改正及び事業・支部担当理事について

<高田会長より新組織と理事の所掌業務について説明>

○増田支部長(三多摩東)：理事と委員の肩書の住み分けはどうなっているのか。

○高田会長：特に区別はしていない。

○細木支部長(品川)：守屋理事の役職のところが

空欄になっていのはなぜか。

○高田会長：守屋理事は当初政治活動をやりたいと言っていたが、東鍼会では日鍼会と協調して政治活動をやっているの、理事になったからといってすぐに政治活動ができるわけではない。また守屋理事は東鍼会の事業活動に関わっていなかったの、色々な場に顔を出してもらってから決めようということになっている。

3. 平成25年度後期事業スケジュールについて  
＜岩元副会長よりスケジュールの説明＞

○増田支部長（三多摩東）：「おおつかサロン」とは何か。  
○松浦理事：筋力アップ教室の修了者の方々を集めて年2回同窓会をやっていたが、それを見た豊島区がそういう取り組みも必要だということで、区内10か所ぐらいで介護予防サロンというのを立ち上げた。大塚地区は東鍼会にお願いされたので月1回の割合で実施しているものである。

4. 平成26年度予算の編成について  
＜佐藤理事より年間支部事業計画の提出について依頼。＞

○増田支部長（三多摩東）：支部の活動は年に1回なのか。  
○佐藤理事：基本的に1回である。

5. 一般鍼灸師(非会員)の療養費申請書の取扱いについて  
＜関口理事より説明＞

○武内支部長（豊島）：会員と非会員の差額だが、他の団体との比較はしたのか。  
○関口理事：比較したが、他の団体の額はマチマチである。  
○薦田支部長（杉並）：資料の最後に療養費の申請書類の受け入れについて支部に協力を求めているが、保険指導員がやればよいということか。  
○関口理事：そういうことをお願いしたいということだが、支部によっては指導員がいないところがあるのでその場合には支部長に取りまとめをお願いしたい。

6. 「スポーツ祭東京2013」のボランティア参加について  
＜藤井理事より説明＞

○増田支部長（三多摩東）：西東京市の健康推進課から三多摩東支部に要請があり、「スポーツ祭：東京」のバスケットボール大会のボランティアに参加することが決まったので報告する。10月4～6日に田無のスポーツセンターで実施する。

○細木支部長（品川）：ボランティア参加は研修会を受けた人に限るような「ボランティア資格」といった独自制度を東鍼会で作ってほしい。それから鍼灸師が参加するのだから実際に「鍼」を使っ

てほしい。  
○藤井理事：今回のボランティアは研修の受講を必要条件としている。またボランティア治療には豪鍼も使うのでテーピングやパイオネックスが主ではない。

7. 日鍼会全国大会（岡山）参加について  
＜伊集院副会長より参加依頼 現在は東鍼会から27名参加 全国では410名＞

8. JIMTEF災害医療研修受講者の募集  
＜高田会長より説明＞

9. 「在宅鍼灸医療を推進するための会」について  
＜松浦理事より説明＞

10. その他

○野呂支部長（台東）：台東支部の学術研修会を案内する。11月9日（土）午後6時、中村温灸院、会費5,000円。

○増田支部長（三多摩東）：「一鍼たすけ」が出されているが、もっと簡単なもので構わないので患者に配れる季節的な内容を載せたパンフレットを作ってもらえたらと思う。

○武内支部長（豊島）：「年間支部事業計画」はダウンロードできるのか。

○高田会長：メールアドレスが登録されている支部長には配信できるのではないかと思う。

○武内支部長（豊島）：〈「元気でイキイキ教室」事業の立ち上げについて説明。〉

○細木支部長（品川）：各支部でいろんな取り組みをしているのが励みになるので、是非記事を広報に載せてほしい。

以上

## 東京都福祉保健局委託学術研修会（前期） 開催報告

平成25年度 第45回東京都福祉保健局委託学術研修会を9月1日（日）13：00～日本鍼灸会館において開催いたしました。今回は「在宅医療」をテーマに2つの講演を行い、会員40名の参加を得て、熱のこもった研修会となりました。

第1座は「在宅医療の全体像」と題して日本プライマリ・ケア研究会会長：鈴木内科医院 副院長 鈴木央先生からご講演を頂きました。鈴木先生からは豊富な資料をもとに「在宅医療の本質」について解説を頂きました。— 在宅医療とは、医療者がそれぞれの患者の生活の場（自宅・老人ホーム・グループホームなど）に訪問して行う医療である。その多くは慢性期医療・終末期医療となることが多い。医師は、本来「病」を治すのが役割であるが、医療には限界がある。— など。

ここに「治す医療」から「支える医療」へと転換が求められてくる。「支える医療」のプロセスの中で重要なことは、本人をはじめ家族の満足度が重要になってくる。満足度が高ければQOLも高く維持することができる。その実現には、鍼灸師を含めた多職種協働が求められてくる。介護の知識・医療の知識を共通に持ち合わせていくことが不可欠となる。鍼灸師が専門職として参入の余地は十分あるが、医療連携において認知度の点で十分機能できていないのが現状であると思う。

その解決策として、第1に漢方薬治療が有意なデータ蓄積の結果エビデンスが得られ医療の選択肢に入っているように、鍼灸の有効性としてのエビデンスを蓄積する必要がある。第2に地域での様々な勉強会や多職種協働イベントに参加し、互いに「顔の見える」関係を作って行くことが重要であると考え。等々、重みあるご示唆を頂きました。

第2座は、「地域医療関係者と連携が取れる鍼灸師」というテーマで、東京都鍼灸師会 会長 高田常雄先生からの講話を頂きました。

紙面の関係で詳細は省かせていただきますが、高田先生の着実に、かつ精力的に地域医療に関わっておられる様子が熱く伝わってまいりました。大きなトラブルが発生したときに、日ごろ連携を密にして

いた他の医療業務者の協力で問題解決ができたこと、在宅生活を余儀なくされている虚弱高齢者の方々に接しての有効性や課題など具体的な実践を通してのお話でした。

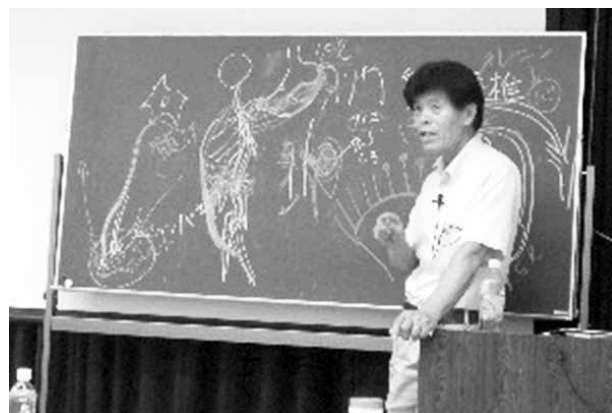
鈴木先生からもご指摘いただいたように、私たち鍼灸師は治療室において全身全霊を尽くすことは当然であるが、それに留まらず積極的に地域に関わっていくことの重要性を参加者一同大いに啓発されました。

研修事業部 芝田 武司

## 支部だより

### 新宿支部

— 「もう一度解剖学⑧」 —



平成25年7月17日(水) 19：00～

{日本鍼灸会館} シリーズ8回目となる今年の年間テーマは「腎臓」。60兆個の体細胞をたった200万個のネフロンが水分調節を担う不思議・腎臓と脊柱の生理的彎曲のお話など腎臓のエピソードはつきません。夏解参加者は58名。

秋解は10/23です。



— 1 泊解剖研修旅行 —



お盆明けの日曜日、予想した渋滞もなく千葉勝浦駅に到着。ここで河野俊彦先生と合流、総勢13名で昼食となりました。河野先生から今回の研修の目的を紹介されました。

通常の解剖学は講義と解剖実習見学の2種類で行われ、実習見学は実際の臓器が見られますがそこまでは。人体生理は臓器内の小器官で行われます。そこで今回は講義と共に実際の臓器を肉眼で、組織を顕微鏡下で見て、初めて構造機能を理解することができるのです。先生の熱いお話を肴に美味しい海鮮料理を頂きました。

午後はマリンパーク内の海の博物館へ、夏休み特集で「棘皮動物—ウニの仲間たち」がテーマでした。河野先生は発生や進化の説明を聞きながら順路を移動しました。

その後宿泊地に予定通り到着。温泉、夕食そして宴会と初日は暮れました。

翌日、午前中の講義は消化器・泌尿器・呼吸器の解剖と肝臓・腎臓・脾臓・肺の組織についてでした。昼食後、武道大学スポーツ科学研究所へ移動、いよ

いよ組織標本の説明です。教科書の図と違い、実際の組織は見分けが難しく先生の丁寧な説明でようやく理解出来ました。横紋筋の整然とした並び・肝実質細胞と肺管腔組織の違い、腎糸球体組織周辺部など大変貴重な標本を見せていただきました。

やはり臓器を手にとって見るだけでなく、その先の組織を理解すると臓器そのものの機能がよりクリアーに理解できることを実感しました。

新宿支部 木村 茂

三多摩北支部

学術講習会 開催



平成25年7月20日(土) 19:00~

簡明テキスト『難経』の編訳者・名越礼子先生をお招きして「難経」の解説をしていただきました。{小金井市民交流センター和室} とくに、今日の臨床に深く関連する難を集中的に解説していただくもので、初日はまず、『難経』中でも、目玉的な第1難、脈は寸口のみで診る、についてから始まります。

なぜ寸口部すなわち手関節内部だけで全身の状態を把握できるのか? — この部位の拍動は他の部位にくらべて触知しやすいことがあります。それに太

淵・経渠・列缺と三箇所の拍動部が続けて存在するという特徴があります。

これらはいずれも太陰肺経なのですが、呼吸の気を表すだけでなく、中焦において水穀の気を掌握し五味による五臓の気を肺経に取り込んでいるという理由によって、寸口部だけで五臓の気の盛衰を知ることができる、というところまで展開されたのです。

五臓の気をそれぞれどの部位で診るのか？

という問題については、18難で説明されます。ここでは、五行学説を運用して十二経脈を配当し左右それぞれ三部、両手で六部の脈診部位を決めたのです。

このとき、『難経』は、右尺部に心包経を配当したのですが、後に右腎を命門とする説を出したことから、右尺部に命門（右腎）を当てることが支持されるようになりました。

22難の是動病と所生病も、諸説紛々論争の多い難です。これは、十二経脈にそれぞれ是動病と所生病という二種類の病症がある。という説で、『難経』では是動病は気の病、所生病は血の病としたので、是動病にも血に関する病がある、所生病にも気に関する病がある、という反論が出て混乱したのです。

しかし、気の病とは表裏でいえば表、陰陽でいえば陽の病、血の病とは表裏でいえば裏、陰陽でいえば陰の病と理解すれば納得できるのです。以上のように、よく知ってはいるけれど、疑問や論争のある難を掘り下げて考えて理解を深めたいこうという学習会でした。

三多摩北支部長 邊田 幸藏

## 八王子・日野支部

### 支部主催「鍼灸市民講座」開催



平成25年7月21日（日）JR八王子駅前東急スク

エアにおいて八王子・日野支部主催「鍼灸市民講座」『鍼灸による夏バテ・夏冷え対策法』を開催しました。東京都鍼灸師会の全面的ご支援、及びセネファ(株)、セイリン(株)のご後援を頂き一般の方々のご参加を得て開講しました。

当日は参議院選挙投票日と重なり多くの方々にご参加頂けるかとの心配がありましたが、20歳台から80歳台までの幅広い御参加を得ることができました。

当支部としては初の市民講座で事前準備から積極的に携わって頂いた支部役員総出のお陰で盛況のうちに2時間を過ごすことができました。



講師として当支部員であるお二人の先生、日本体育大学非常勤講師で高尾鍼灸院院長の石間信一先生、及び東京都鍼灸師会理事で鍼灸指圧タイプ院長の安部達彦先生にお願いしました。

石間先生には鍼灸に馴染みのない方々を対象とした基礎知識と冷えを起こさない食事療法をお話いただきました。安部先生には東西それぞれ異なった哲学で誕生した両医学の比較を行いながら、東洋医学特に鍼灸の成り立ちをご説明頂きました。安部先生には当日で後援頂いた各社から提供された試供品（台座灸、円皮鍼）をご家庭で安全に施術できる方法についても説明して頂きました。

講演後多くの皆様から活発なご質問が続き、講師のお二人から丁寧な回答がなされました。終了後に回収したアンケートでは主催元・講師陣への感謝と「次回も是非開催して欲しい」などの声が多く聞かれました。

八王子・日野支部長 上杉 勝

目黒支部

鍼とお灸266名に無料体験



平成25年7月27日(土)・28日(日)  
10:00~16:30 (9:00~17:30)

「リバーサイドフェスティバル」(目黒商工祭)は目黒のお祭りの中でも今年50回を迎え来場者が毎年2万人規模のお祭りです。目黒区鍼灸師会の活動として、12年目の出展の成果が実ったおかげか(?)、今年は会場の中心部に展示ブースが設けられ、呼び込みしなくても順番待ちの列が出来る時間が長いほど盛況でした。

今年も『鍼灸の効果を確実にわかっていただく』ことをテーマに、2日間で鍼(パイオネックス利用)とお灸を266名の方に体験していただきました。

鍼体験の194名中99名が「効果がわかった」灸体験の195名中126名が「効果がわかった」と回答がありました。

「気持ちよかった」はお灸78名に対して鍼は12名でした。

今回、残念だったのはスタッフのアンケート記入について確認不足で、鍼灸体験をした約71名の記入欄が空欄のままになってしまいました。痛恨の失敗で、記録を残すことの大切さを再確認しました。しかし、昨年よりも体験していただいた方は67名多く、いらしていただいた方には、鍼灸の効果を実感していただけたと思います。

以下はアンケートまとめです。(無記入省略)

問1. 女性147名、男性116名。

問2. 年齢40~59歳 109名  
20~39歳 88名  
60~79歳 46名

80歳以上 5名

19歳以下 16名

問3. 有職者 187名

学生 16名

無職 59名

問4. ストレスを感じますか?

若干感じる 137名

感じる 80名

感じない 37名

お祭りに参加される方は上手にストレスを発散できているのかもしれませんが。

問5. お困りの症状がありますか?(複数答)

首肩こり 170

腰の痛み 89

疲れやすい 63

関節の痛み 36

便秘 25

眠れない 19

下痢 7

その他28は一眼が疲れる、膝関節の痛み、足のむくみ、しびれ、頭痛などがありました。

問7. 鍼灸治療を受けたことがありますか?

(複数回答可) ある97名のうち、

10回以上 21名

5回以上 5名

2回以下 59名

今も時々 6名でした。

そのうち 治療効果があった 38名

とても効いた 13名

しかし、効果がわからない 28名

と残念な結果もありました。

受けたことがない方のうち「痛そう」62名、興味がある60名と「痛くない鍼」のアピールを今後も続けていく必要を感じました。健康保険が使えるなら受きたい16名と意外に保険適用外がハードルになっていない印象を受けました。

問8では、一般の方への鍼灸に対するイメージ調査

と考えて『WHOが鍼灸の有効性を認めた疾患と思うものはどれか』(複数回答可)との設問を入れたところ

頭痛76 坐骨神経痛74 慢性関節リウマチ66

慢性副鼻腔炎46 近視43 月経異常41 不妊症40



肥満38 頸部筋筋膜炎35 過敏性腸症候群31  
うつ病24 メニエール病23 尿失禁21  
インポテンツ20 パセドウ病16 わからない97でした。  
保険適用疾患はやはり多い印象があり、近視や肥満が上位でした。

施術部位は肩井92名、曲池15名、膝眼13名、5～10名は足三里、三陰交、腎兪、合谷、肩髃、4名以下は天宗、血海、太衝、水泉、胃兪でした。灸体験は肩井87名、足三里20名、膝18名、曲池13名、合谷7名、5名以下腎兪、三陰交、血海、肩髃、太衝でした。

季節柄、肩は施術しやすくどちらも肩井がダントツに多い結果となっています。

毎年のことですが鍼やお灸が初めての方に「えっ？凄い！一瞬で違う！」と驚いていただいたり、鍼って痛くないんですね、お灸って気持ちいいですね、というお声をたくさんいただけて、これからも鍼灸の普及を続けていく必要性を感じました。

目黒副支部長 林 真紀子

## 葛飾支部

### 支部ボランティア開始

平成25年8月9日（はりきゅうの日）にむけて8月5日から9日までの5日間、来院型のボランティア治療を行いました。

区の広報誌に掲載して頂き、区内全域にお知らせすることができました。

30代から70代まで22名の応募があり、会員5名で治療にあたりました。

「慢性的な首から肩の痛みで鍼灸には以前から関心があったけれど、どこに行ったらよいかわからなかった。この機会に受けられてよかった」など貴重なご意見を頂戴しました。

今回のボランティア治療にあたり墨田支部長 森野先生にはノウハウを教えてくださいました。この場をお借りして御礼申し上げます。

葛飾支部長 小林潤一郎

## 品川支部

### 第8回 鍼灸臨床実践講座開催

平成25年8月25日（日）13：30～16：30

品川区立五反田文化センター

第1部は報告者（細木 信孝）が講師となり「鍼灸師のスポーツトレーナーとは」と題して実際のスポーツ大会の会場や、治療院においてのスポーツトレーナーの役割についてお話をいたしました。

- ①鍼灸師がトレーナーの場合、柔整師のトレーナーと違った観点からのアドバイスや、アピールができること。
- ②スポーツ選手は鍼灸の有効性が率直に分かること。
- ③鍼灸とストレッチ（独自で開発した太極導引術の手技）を取り入れることで、今まで柔整師が行っているアイシング・マッサージ・ストレッチ・テーピングのケアより、一ランク上のケアサポートができること。
- ④選手達も、その一段上を希望していることを紹介した。

現在、スポーツトレーナーは鍼灸師・柔道整復師の免許を持った者。まれに、マッサージ師も、やっている場合もあるが、一応、いずれかの国家資格が必要とされている。最近では、いずれかの専門学校でスポーツトレーナー科を修了して、スポーツジムに勤務している者もいる。確かに、鍼灸師の専門学校ではトレーナー技術の授業はなく、免許を取ってから独自の勉強となっている。この現状では、マラソン大会・スポーツ大会で、ボランティアとして治療ブースを出しても、鍼を刺す訳でもなく鍼灸師なのにマッサージや、バイオネックスを置くだけの、まったく形だけの、ケアブースと成っている。多分、やっているボランティアも歯がゆい思いをしている事だろうと推測します。

それならば、公益社団法人を取得した東京都鍼灸師会が母体となり、トレーナーの講習会を行って、受講修了者に公益社団法人、独自の公認トレーナーの称号を授与して、それらの公認者が東京都鍼灸師会公認スポーツトレーナーとして、各スポーツ大会のケアブースで鍼灸を用いて選手のケアをしたら、きっと、選手達の役に立つトレーナーになるのではと、思っています。そうする事でスポーツには欠か

せない鍼灸師として、もっと道も開けて行くのではないかと思います。

今後の、公益社団法人東京都鍼灸師会：執行部の行動力と集中力に期待しています。

第2部は、品川区鍼灸師会学術部副部長で、すこやかな森院長の若杉 寛先生で「不妊症を含む、婦人科系症状のやさしい中医学的鑑別と治療」と題して、中医学的観点から来場者に分かり易く解説し、腹診の重要性や腹部の鍼の刺し方・刺鍼の重要性を解説した。

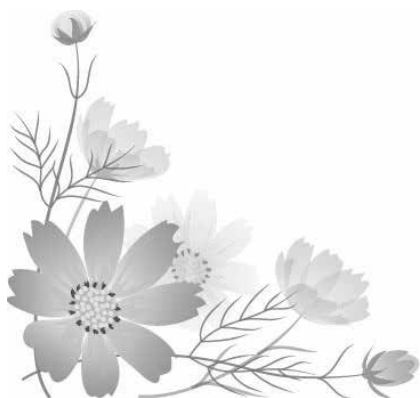
若杉先生は、中医鍼灸東京健鍼会会長を務める中医学に精通した方で、これからの若い鍼灸師の指導者として確実に必要な先生であり、品川区鍼灸師会ではこのような特殊技術を持った先生方による学術の研修を随時進めて技術を高めていこうと思っています。

質疑応答では、逆子の治し方の質問が出た。必要経穴は？ 三陰交・至陰は？ という意見は一致したが、ここで品川区鍼灸師会の誇る困った時の高橋永寿先生の登場。

逆子は来院したその日に治すという、高橋先生の取穴・施灸の仕方・赤ちゃんの回転の方法・母体の回転のさせ方など、実技を踏まえて細かく指導と講習をして頂きました。この技術は実際に参加した方々には本当にとても、得した内容でした。今回参加された方は、みんな「逆子治療のエキスパート」になれる位の内容でした。

これからも、出席すれば絶対お得の、品川区鍼灸師会学術研修会を目指し、また会員メリットの追求を目標にして、実行に移して行きたいです。

品川支部長 細木 信孝



## 三多摩東支部

### 東京国体2013：バスケットボール競技会



10月4日(金)～6日(日)の3日間、西東京市総合体育館において行われた「東京国体2013」のバスケットボールゲームに、トレーナーブースにて参加いたしました。

バスケットボールは「立川市・西東京市・小金井市・東村山市・武蔵野市」5市に分散してゲームが開催され、西東京市では「成年女子1・2・3回戦および準々決勝」「成年男子準々決勝・準決勝」が行われました。

当支部では「2012国体プレ大会」にも参加していたため、昨年の反省をふまえ行政との連携もスムーズでとても活動しやすい状況でした。今回は「柔道整骨師会西東京支部」のみなさんと一緒に活動することになり、我々は鍼灸の施術に彼らはテーピング・アイシング・ストレッチの施術にと良い塩梅のすみ分けができ、施術方法にも無理がなく楽しい運営になりました。

今大会では各チームに専属トレーナーが同行しているようで、選手より審判員の方々が多くブースに来られました。バスケットボールでは、審判員の方々の運動量もかなりのもので、選手と同等かそれ以上に走り回られていたようです。

3日間通しでの利用者数は13名とたいした数では無かったのですが、柔整師会の方々との連携もしっかりととれるようになり、今後も何か催し物が有ったときには、お互い声を掛け合う事で、支部活動にもとても大きなメリットになりそうです。



オリンピックを控え、今後どのような形で鍼灸がスポーツと関わっていけるのか、今までの関わり方で良いのか、正直「疑問と不安」で一杯でしたが、今回、柔整師会の方々と一緒に活動することで、その「疑問と不安」が解けていく小さな糸口が見えてきたような気がしてきました。

三多摩東支部長 増田 眞彦

#### 第68回 国民体育大会スポーツ祭東京2013に参加して



今年の国民体育大会は東京で開催され、東京都鍼灸師会は硬式テニスとソフトテニスの世田谷大会に「鍼灸・コンディショニングコーナー」にてボランティア活動を行ないました。

大会の準備を着々と進めているところに東京オリンピック誘致のビッグニュースの発表があり、選手・関係者も気分が盛り上がったことと思います。

国体硬式テニスとソフトテニス競技のブースに東京都鍼灸師会が募った鍼灸師やアシスタントの学生が参加しました。

参加者は本会の会員だけではなく、非会員・鍼灸養成学校の学生も含んでいるためテニスというスポーツ競技の知識と、特にどのような傷害が多く、連続する試合の合間でどこに疲労が溜まりそれらをど

れだけ楽にすることができるのか。また、急性炎症を伴う傷害とコンディショニングに適した症状の見極め。この点に留意し各論では競技者への毫鍼・パイオネックス・アイシングの知識を共通認識として9月18日に大塚の会館2階にて研修会を行いました。



会場：世田谷区立総合運動場  
大蔵第2運動場

場所：総合運動場横屋外テント2張り  
9/29(日)～10/2(水) 硬式テニス  
10/4(金)～10/7(月) ソフトテニス



初日は7：50分現地駐車場到着し搬入開始。

体育館の中にブースがあるらしいという事前情報があったため迷うこと30分。汗だくで屋外テントを発見。世田谷区のほうから診療ベッド4床・ワゴンテーブル4台・デコラテーブル2卓・パイプ椅子10脚・丸椅子4台・マクラ4台・布パーテーション4台が設置されていました。

事前にバスタオル100枚をレンタルし搬入。

午前のコンディショニング開始に際し、ブースが屋外設置であるためテントの横幕を捲り上げてお店を開店するようにすべてをセッティングするという作業を初日だけでなく毎朝行なうことから始まりました。終了後は朝のセッティング作業の逆の「戸締り」をして翌日午前のボランティア参加者へバトンタッチということを繰り返しました。



また、国体ボランティア参加者全員に情報を共有できるMLが初日から上手く行かずに情報の不行き届きがあり、たいへん混乱しましたが数日で問題も収束し全員に最新情報が共有できるようになりました。

大会中は硬式テニスの初日はお天気にも恵まれ暑いくらいでしたが10月1日はつい天となり雨がテントの床まで入り込み靴の中までグチャグチャ状態で選手たちもずぶ濡れ、2・4・5日は気温も15~18度とブルゾンを羽織ってもまだ寒いくらいで運悪く、この日のボランティアに当たった先生方は辛かったと思います。本当にご苦労様でした。

最終日は晴天の決勝戦となり午後の撤収作業もスムーズに完了しました。やはり、競技者やボランティア参加者にとっても屋内でできれば良かったと思います。

**硬式テニス成年男子競技報告：東京は4年ぶり7度目の優勝。**

成年女子：静岡が10年ぶり3度目の優勝  
少年男子：東京が2年ぶり7度目の優勝  
少年女子：東京が3年ぶり10度目の優勝  
やはり、ホームの強みか実力か、東京が3部門で優勝しました。

**ソフトテニス成年男子：奈良が2年連続3度目の優勝**

成年女子：東京が3年ぶり8度目の優勝という結果でした。全国から勝ち抜いて来られた選手・関係者の皆さま、お疲れ様でした。

今回の国体ボランティア8日間を振り返って…。

今振り返って一番ホッとしたことは利用者にトラブルが無く、最後は感謝のお声をかけて頂いて終了できた事です。

ここはあくまでコンディショニング、足を引きずっていらっしゃる方を診ると毎日施術をしている先生方は当然、鍼の効果をもその場で見せてあげたいと思

うところをグッとこらえて救護室にお連れしました。

日ごろ、疲れた大人たちを多く治療している私たちは、若い選手の筋は想像以上に余計なものが無く弱刺激でも驚くほど反応が素直なこと。何人が連続して同じタイプの選手を診ていると自ずとドーゼは計り知れます。

よって、トラブルを起こしうような刺激量は不必要ということがわかりました。

本会にとっても参加していただいた先生方にとっても国体競技への公益活動は初めての経験です。しかし、各区民まつり・市民マラソン・東京マラソンへの公益活動参加経験を元に年々学習し培われたノウハウはここに活かすことができたと確信しました。

暑い中・寒い中・雨の中を参加していただいた先生方には、今回の難行体験や達成体験という宝石箱が身につくことができたと思います。お仕事場へ帰られて翌日の診療からこのボランティアでの体験は治療に輝きを増すことになるでしょう。ありがとうございました。

スポーツ・ボランティア担当 藤井 伸康

都立武蔵野中央公園スポーツ広場  
平成25年10月11日(金)~14日(月)



初日の参加者



最終日の参加者

1. 準備：ベッドは東鍼会が用意、それ以外の設備、備品は東京都担当行政が用意（バスタオル100枚・フェイスタオル100枚、クーラーボックス及び毎日の氷含む）
  2. 使用鍼：（セイリン、ファロス提供）温灸（ヤンイー貿易提供）、テーピング（一部ファロス提供）
  3. コンディショニング・ルーム：ベッド2台、テーピング&アイシング&座位施術1名および受付
  4. 施術メニュー：アイシング、テーピング、鍼灸、マッサージ（原則は鍼灸。希望の場合はマッサージも併用）—— 国体テニスと違って参加者の参加時間は全員全日であった。
- ①10/10日(金) 8:30~17:00 参加者10名  
（会員5、非会員4、学生1） 受療者16名
- ②10/12日(土) 8:30~17:00 参加者11名  
（会員5、非会員4、学生2） 受療者25名
- ③10/13日(日) 8:30~17:00 参加者13名  
（会員5、非会員4、学生4） 受療者40名
- ④10/14日(月) 8:00~13:00 参加者10名  
（会員5、非会員4、学生1） 受療者25名



参加チーム数も少なく限定されたグラウンド内、選手の受療時間は試合のインターバルか団体送迎のバスの発着時間内という厳しい条件のもとスタッフ全員の頑張りでも100名を超す受療者を達成したのと思われまます。

## 障害者スポーツ大会と 区民祭りのための研修会（2回）

第1回目9月23日(月) 18:00~日本鍼灸会館



講演①「障害者との接し方」柴田健一先生

（筑波大学附属視覚特別支援学校鍼灸手技療法科）

「そこに」「ここに」など指示語などは使わずに座って欲しい椅子、寝て欲しいベッドをポンポンと叩く。異性のトイレ誘導はあまり神経質にならないよう、かえって高速道路の大きなトイレの方が困るなど視覚障害の方の立場からの言葉は大変参考になりました。



講演②「スポーツ・テーピング」紀平晃功先生

（呉竹学園東医研）

アスリートに対するテーピング講座。選手からテーピング希望が多いため設けた講座。足関節捻挫やテニス肘等どの方向に制限をかけたいかによって制限の強さによってテープの選択が変わるなど比較的遠い存在だったテーピングが身近になりました。（参加者58名）

第2回目10月9日(水) 18:00~日本鍼灸会館



講演①「ボランティア施術：毫鍼治療の基本」

古海博子先生

痛くない、事故のないボランティア施術の毫鍼治療の基本を参加者全員で認識を新たにしました。



講演②「鍼灸院で使えるテーピング」紀平晃功先生

(呉竹学園東医研)

裏紙付きの伸縮テープを簡単に貼るだけで、鍼灸施術効果の持続や患者さまにも満足度をより感じていただけるなど鍼灸師も積極的にテーピングを取り入れるべきと感じました。(参加者48名)

2014国体長崎県師会 松本丞平先生、2015国体和歌山県師会、2016国体岩手県師会の先生方が視察にお見えになりました。

鍼灸師 佐藤 学

初日に参加させていただきました。練習日という事もあり利用者は多くはありませんでしたが、先生方のケアを間近で見ることができ、とても刺激になりました。競技自体は、とても視覚障害者とは思えない反応の良さやパワー、勝ちに行くその姿勢に見ても揺さぶられるものがありました。このような機会を与えていただきありがとうございました。

新宿支部長 井坂 卓司

足立支部

足立スポーツカーニバル

平成25年10月14日(月・祝日)

9:00~15:00 足立区総合スポーツセンター

参加者12名 鍼灸治療体験者71名



当日は大変多くの方に鍼灸治療体験ブースにお越しいただきました。午前11時30分の時点で、午後2時の終了時刻までのご予約が一杯になり、多くの希望者の方々にお断りをしなければならない状況になってしまいました。ブースにお越しいただき、施術を受けられなかった皆様、大変申し訳ございませんでした。

一方では、鍼灸治療に関心のある方が大変多くいらっしゃるところも改めて感じることができ、今後の活動に励みにありました。今後は更に多くのイベントに参加して、鍼灸治療の素晴らしさを伝えて行きたいと思います。

来年は是非とも、多くの会員の皆様にご参加いただき、足立区鍼灸師会の活動を盛り上げていただきたいと思います。

支部会員 塙 敬茂

### 広報部からのお詫び

#### 港支部



9月号に掲載する予定でした。微笑ましい写真です。不手際でした。お詫び申し上げます。

広報部長 天野 寛敏



## 速報

### 第9回 公益社団法人 日本鍼灸師会全国大会 in 岡山

平成25年10/13(日)・14(月・祝)  
会場：岡山コンベンションセンター

県民公開講座「宇宙と鍼灸」～健康長寿を探る～  
ご報告します。



演者紹介 (左から)

明治国際医療大学：教授 今井 賢治氏  
元JAXA 宇宙飛行士  
宇宙少年団YACアドバイザー  
内閣府宇宙政策委員 山崎 直子氏  
JAXA日本宇宙開発機構 小林 智之氏  
倉敷芸術科学大学：教授 内田 輝和氏

スペースシャトルが発射されて約8分後、毎秒8kmの速度で「宇宙一無重力圏」に到達し90分で地球を1周する。したがって45分は昼、45分は夜。せわしない明暗を体験する。よって宇宙飛行士が体験する「ストレス」は計り知れないものとなる。

山崎 直子氏は「宇宙での体感そして…」

1. 打ち上げの「モクモク」には大変重要な目的がある。発射時の音・衝撃波は想像を絶するものであり、宇宙船・ロケットや人体への影響を緩和する。(圧縮蒸気がその正体)
2. 宇宙は無重力である。個人差あるが身長が2cm～5cm伸びる。発射後8分で無重力に。帰還時は1時間かけて着陸をする。その間、徐々に元のように身長が縮むとのこと。
3. 時差ボケ対策として、打ち上げの1か月前から身体を慣らしてゆく。
4. 宇宙酔いがある。

- 5. 宇宙ステーションに長期滞在する場合は、筋力トレーニングが欠かせない。
- 6. 丈夫な骨格が必要とされないで「骨量」が低下する。
- 7. 船内で物を運ぶ時には、足や股に物を挟んで運ぶ。なぜなら足で移動するとコントロールできない。手を使って移動する。
- 8. 排泄は想像通り「男女」で違う便器である。
- 9. おならの臭いは？ との質問に空気清浄機？はあるが臭いは我慢しなくてはならない。地上訓練の一つに「腸内管理」もありそうだ。「おなら」を発するとき、どこかにつかまっていなくて自分が「小さなロケット」になる。



小林 智之氏は「宇宙開発と鍼灸の関わり」

- 10. 打ち上げ時の宇宙服は40kgの重さがある。船外活動時は+120℃から-150℃。寒暖の差が270℃ある。120kgの装備「冷却下着・断熱材」でないと船外活動で生命が維持できない。
- 11. 10cm以上の「宇宙ゴミ」は、あらかじめ捕捉し回避できるが、それ以下の大きさは回避ができず危険である。宇宙ステーションの進行方向部には衝撃を吸収する「ダンパー」が備えてある。
- 12. 落盤で地下に閉じ込められた事故ではNASAから専門家が派遣された。

内田 輝和氏は「宇宙で鍼灸を」

- 13. すでに“セイリン”に依頼し「宇宙鍼」が考案されている。鍼を片手で打つ必要があるので打ちやすいように鍼柄にお皿が付いている。その鍼体は短い。



- 14. 地球上では、足がむくむが宇宙では顔がむくむ。いわゆる、本当の「ムーンフェイス」である。
- 15. 飛ぶまでの10年間に、あらゆる教育や実地訓練を受ける。隊員たちは全員、気道確保・気管挿入をはじめ傷の縫合術も会得する。
- 16. 船内でも1日1mmCVの放射線を浴びている。船外活動も同じである。

今井賢治氏は「鍼灸の宇宙応用を目指す」



宇宙で働く人と極限環境（過疎・限界集落・被災地）は災害時の医療状況と類似している。

- ①人里から離れている
- ②必要なものがすぐに手に入らない
- ③限られた人で対処するしかない
- ④高度な医療設備は存在しない

今井氏のグループはJAXA宇宙開発機構の企画一次審査を通過。今後は、宇宙ステーションへの持ち込み・宇宙飛行士が自分で打つことの有用性を切り開いてゆくことになる。

(アメリカ国防省は戦場においてPTSDに対し鍼灸を導入し始めているようだ。)



## お知らせ

### 「在宅鍼灸医療推進の会」

11月10日(日) 10:30~12:00

今年度第三回目の「在宅鍼灸医療推進の会」を日本鍼灸会館で開催いたします。

今回は東京都鍼灸師会研修事業部と合同研修という形式を予定しています。

演題 「地域包括支援センターの活動について」

講師 前場 徳世氏

(豊島区東部高齢者総合相談センター主任)

保健師・看護師・主任介護支援専門員

第二回目の会でご紹介しましたが、地域包括支援センターは、「地域ケアネットワーク」の医療・福祉の中核を担う部門であり、在宅医療・福祉の中心的存在です。

### 第46回 都委託学術研修会(中期)

11月10日(日) 13:00~14:30

演題 「在宅医療の効用と課題」

～PT・OT・鍼灸師医療関係職員の担当領域～

講師：英 裕雄氏(医師) 三育会理事長

演題 「在宅医療への鍼灸師のかかわり」

～20余年の試行・実践を通して～

講師：萩野 利赴氏

(和歌山県鍼灸師会会長・はぎの鍼灸院院長・上富田クリニック東洋医学担当)

9月1日(日)に開催された都委託講習会では鈴木 央氏(東京プライマリケア学会会長)から鍼灸は癌のターミナルケアで活躍できる可能性があるとお話を頂きましたが、萩野先生はまさにその分野でご活躍をされています。

現在そして将来のニーズに対応できる情報と知識を習得していきましょう。

### 参加申し込み(記入事項)

①所属団体 ②支部名 ③氏名

④資格：鍼灸・あん摩マッサージ指圧

⑤〒 ⑥住所 ⑦TEL ⑧FAX

⑨メールアドレス

⑩11月10日の研修会 午前・午後 に参加

(第1回・第2回に参加された方は氏名のみの記入で結構です。できる限り申し込みはお願いしますが、当日参加でも構いません)

記載は楷書でお願いします。メールアドレスは特に明確に記載してください

事務局宛にお送り下さい。

在宅鍼灸医療推進の会 松浦 正人

### 三多摩 学術講習会

「慶応大学病院における鍼灸治療について」

11月17日(日) 13:30~15:30

演題 「慶応大学病院における鍼灸治療について」

講師：医学博士 鳥海 春樹先生

慶応大学医学部 講師

慶応大学大学院 政策・メディア研究科 准教授

会場：国分寺市南町3丁目 国分寺労政会館

国分寺駅南口5分 TEL 042-323-8511

### 『コロコロはり教室』開催

小児鍼などを用いて保護者の方に子どもへの皮膚刺激の大切さと、鍼灸の効果を伝える普及活動です。

11月18日(月) 10:30~11:30

練馬区旭町南地区会館・和室にて

(光が丘駅徒歩10分)

●対象：2ヶ月～2歳のお子様と保護者の方

●講師：目黒支部 林 真紀子

●今回は場所が狭いため見学は会員の方のみとさせていただきます。

見学希望の方は

11月10日までにあらかじめご連絡ください。

連絡先 ringo-shinkyuin@excite.co.jp

電話 050-3413-823 林 真紀子

### 新宿支部：活動予定

#### ①11月29日(金)

新宿区鍼灸師会：「千葉大医学部解剖見学」

#### ②マラソン・ボランティア施術スタッフのための「ツ・ボランティア」研修会

新宿シティーハーフマラソンと東京マラソン合同  
講師：小松秀人先生、三浦 洋先生の予定 日程未定 (第1回)

#### ③公開講座：スポーツ・ボランティア施術スタッフのための「ツ・ボランティア」研修会(第2回)

日程・講師・内容未定

#### ④1月12日(日)

新宿区鍼灸師会：AED救命救急講習会  
(新規・更新者共)

会場：東京消防署新宿消防署

マラソン・スポーツ施術ボランティア参加予定者は要受講。

#### ⑤1月26日(日) 公益活動

新宿シティーハーフマラソン

国立競技場 特設ブース施術所

(現国立競技場の使用が最後となります)

#### ⑥4月5日(土) 公益活動

レガスマつり 区民公開講座：講演2題+鍼灸普及活動「はり体験コーナー」

新宿支部&新宿区鍼灸師会 ホームページ

<http://shinjuku-hari.com/index.html>

(新宿区鍼灸師会で検索してください)

お問合せhari-info@shinjuku-hari.com

新宿支部長 井坂 卓司



### 後期「療養費取扱者講習会」

11月30日(土) 19:00~20:30

(18:30に開場します)

会場：池袋西口 東京セミナー学院

なお、内容の詳細はハガキにてお知らせ致しますので、是非ともご参加のほど、よろしくお願いいたします。

保健・福祉事業部 執行理事 関口 知次

療養費取扱者講習会 委員長 森野 一巳

## 厚生部

### 慶事

おめでとうございます。

江戸川支部 浅川圭介氏 8月3日長女誕生

### 弔事

謹んでお悔やみ申し上げます。

三多摩北 檜山美代子氏 6月16日 母堂 (87)

渋谷支部 小林 康子氏 7月5日 本人 (78)

江東支部 篠田 昭三氏 7月12日 尊父 (93)

文京支部 永島 伸郎氏 7月30日 本人 (73)

足立支部 金子 桂子氏 8月31日 尊父 (92)

板橋支部 草間 健二氏 9月2日 尊父 (70)

## 理事会通信

### 「親子スキンタッチ教室」名称変更について

理由：国家資格者ではない活動と一線を隔するため。理事の賛成多数で変更されました。

お知らせ申し上げます。

## 会長日誌

- 8月3日 永島伸郎先生葬儀  
 4日 関東ブロック会議in埼玉  
 7日 日鍼会業務執行役員会、連盟役員会  
 11日 在宅鍼灸医療を推進する会  
 14日 理事会  
 25日 日鍼会 合同委員会、理事会
- 9月1日 東京都健康福祉局委託学術講習会  
 4日 日鍼会 業務執行役員会  
 8日 日鍼会「スキルアップ研修会in三重」  
 10日 日鍼会 連盟役員会  
 11日 理事会  
 14・15・16日 日鍼会  
     「第26回介護予防運動指導員  
     養成講座 in 新潟」  
 18日 日鍼会 連盟役員会、  
     スポーツボランティア研修会、  
 21・22日 日鍼会  
     「第26回介護予防運動指導員  
     養成講座 in 新潟」  
 25日 支部長会  
 26日 症例検討会  
 22日 山崎巖雄先生葬儀  
 27日 日鍼会  
     「第4回在宅医療を推進する会」  
 28日 2013スポーツ祭in東京 開会式

## 編集室

### 「一鍼たすけ」について

会員の皆さまには1月号を送付致します。

それに先立ち12月初旬、正副会長による都庁訪問時に「スポーツ国体ボランティア：特集号」として関連部署に「一鍼たすけ」を配布し、本会の活動報告に用いる予定です。

なお「一鍼たすけ」1月号からは発刊の前に支部長先生にはPDFメールにてお知らせ致します。患者さまへの普及・啓発用として10部単位で注文を受け付けます。

- ①10部 約2,000円（会報とともに送付）  
 ページ数により頒布価格が異なります。  
 （それ以上の冊数は別途、送料が必要です）

- ②発刊後の受注は印刷会社がオンデマンドで承ります。  
 （コピー製本・要送料）

### 会員のみなさまにお願い

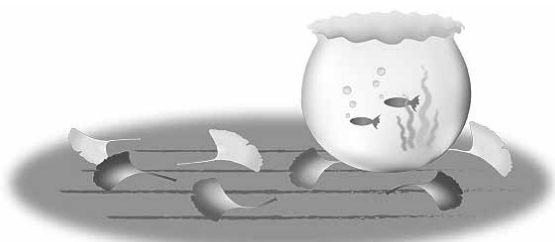
支部長会で「季節に合わせた患者さまに配布できる、鍼灸の普及・啓発に適したパンフレットの製作を」との要望が出されました。広報部としても同意いたします。したがって、具体的な文章やアイデアを募集いたします。

事務局あて、または下記、広報部員まで直接お寄せください。内容を検討したうえで制作したいと思います。

顔ぶれが変わりました。

今後とも、よろしくご協力のほどお願い申し上げます。

広報部長 天野 寛敏  
 広報副部長 安倍 達彦  
 広報部員 原 珠枝  
 監修担当 浦山 久昌



## (公社) 東京都鍼灸師会協力会員

<p><b>株式会社 カナケン</b></p> <p>〒225-0002 横浜市青葉区美しが丘2-17-39 TEL:045-901-5471 URL: <a href="http://www.e-kenkou.jp">http://www.e-kenkou.jp</a> E-mail: <a href="mailto:info@kanaken.co.jp">info@kanaken.co.jp</a></p>	<p><b>株式会社 明 健 社</b></p> <p>〒181-0013 三鷹市下連雀7-6-36 TEL:0422-71-8801 URL: <a href="http://www.meikensha.com">http://www.meikensha.com</a> E-mail: <a href="mailto:1@meikensha.com">1@meikensha.com</a></p>
<p><b>(有)前田豊吉商店</b></p> <p>〒167-0052 杉並区南荻窪1-22-15 TEL:03-3332-7634 URL: <a href="http://www.needlemaeda.com">http://www.needlemaeda.com</a> E-mail: <a href="mailto:harimaeda@pop01.odn.ne.jp">harimaeda@pop01.odn.ne.jp</a></p>	

10月より新しく協力会員になっていただいた事業者をご紹介します。  
<組織担当 佐藤>

- 社名 **丸菱産業株式会社** 東京支店(本社:大阪市)
- 代表者 支店長 細田三男
- 所在地 〒160-0023 新宿区市谷薬王寺町58番地402
- 電話 03-3513-7756
- 会社HP [www.marubishi.com](http://www.marubishi.com)
- E-mail [tokyo@marubishi.com](mailto:tokyo@marubishi.com)
- 業務内容 家庭用低周波治療器「サンマッサー」の製造販売
- 会社のPR

弊社は1961年創業以来「サンマッサー」一筋52年、累計販売台数は220万台を超えました。サンマッサーは、家庭用低周波治療器(管理医療機器)のベストセラーとして知られ、皆様の健康管理と本格的在宅治療に最適の商品です。

発行者  公益社団法人 **東京都鍼灸師会** 会長 高田常雄(広報部)

〒170-0005 東京都豊島区南大塚3-44-14 日本鍼灸会館内

電話 03-3985-7501 FAX 03-3985-7526

メールアドレス [info@harikyu-tokyo.or.jp](mailto:info@harikyu-tokyo.or.jp)